

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議（第2回）

議事概要

1 日時

令和2年8月7日（金） 19:00～20:40

2 場所

石川県庁11階1109会議室

3 出席者

座長	谷内江 昭宏	金沢大学附属病院 副病院長
委員	阪上 学	国立病院機構金沢医療センター 副院長
	飯沼 由嗣	金沢医科大学病院 感染制御室長
	岡田 俊英	石川県立中央病院 病院長
	新多 寿	小松市民病院 病院長
	高田 重男	金沢市立病院 病院事業管理者
	吉村 光弘	公立能登総合病院 病院事業管理者
	品川 誠	市立輪島病院 院長
	安田 健二	石川県医師会 会長
	小藤 幹恵	石川県看護協会 会長
	市村 宏	金沢大学（医薬保健研究域医学系ウイルス感染症制御学分野）教授
	三宅 邦明	株式会社ディー・エヌ・エー チーフメディカルオフィサー

※厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策本部参与

4 議事概要

<県健康福祉部長挨拶>

- ・皆様にご出席いただき7月10日に開催した1回目の専門家会議で出た意見に基づき、検査体制、医療提供体制、クラスター対策の3つの論点を整理していくこととした
- ・本日は、本県における感染状況、そして、前回皆様にご報告いたしました病床確保計画に基づく確保状況について報告するとともに、先に挙げた3つの論点に対する本県の対応方針について、ご議論いただきたい

<資料1 本県における感染状況について>

8月6日時点の感染状況等について報告
委員からは特に意見無し

<資料2 病床確保計画に基づく病床の確保について>

第1回専門家会議で了承した病床確保計画に基づく確保状況について報告
委員からは特に意見無し

<資料3 第1回専門家会議の意見等を踏まえた県の対応方針について>

新型コロナウイルス感染症に必要となる対策について、「検査体制」「医療提供体制」「クラスター対策」の主たる3つの論点ごとに示された県の方針案について意見交換

(1 検査体制の更なる充実)

- 検査の有効性が確認されている抗原検査について、迅速に検査結果が得られる特性を活かし、その活用を図ること
- 高齢者福祉施設等でも、感染が疑われる事例に早急に対応できるよう、施設側で事前に医療への接続や初動時の対応を定めたマニュアルを作るなど準備体制を整えておく必要がある
- また、万一、高齢者福祉施設等で発生した場合は、スピード感をもって検査していく必要があり、検査のための移動・手続きを迅速にできるようにしておく必要がある
- 検査体制の拡充に合わせて、検体採取、検査、受入などそれぞれの段階でのボトルネックをなくしておく必要がある
- 発熱の症状が共通するインフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行時期に備え、検査体制をどのようにしていくか、国の議論も含めた検討が必要

(2 医療提供体制の確保)

- 宿泊療養の可否判断のためには、陽性者の容態の正確な把握や特に発症日からの日数などを踏まえた、医師による判断が重要
- 当面は、陽性者はまず病院に数日間入院し、宿泊施設での療養が可能と判断された方から速やかに移行するのが安全
- 医師が重症化のベクトルが上向いていないことを判断したうえで、退院・宿泊療養施設へということが重要

(3 クラスタ対策の充実)

- 専門家チームの編成にあたっては、チームワークの観点から、単独の医療機関のスタッフでチームを組めることが望ましい
- 一方で、個別の医療機関における人員の実状等を踏まえると、複数の医療機関のスタッフからなるチーム編成としていくことが現実的
- クラスタ発生時、専門家チームなどの支援や対策の効果が最大限発揮されるためには、高齢者・障がい者施設等において、施設内の指揮命令系統を明確にするなど、事前に組織体制を構築しておくことが必要
- また、高齢者・障がい者施設等のスタッフを対象とした指導・研修や訓練を実施しておく必要がある